

くに紙の地を残すとか、又は書いた花の色を残して、背景を畫くのは初學者には困難であるが、熟練すればさ程に苦しまなくとも趣を取ることが出来る、アトでホワイトを用ひる場合、又は一面に塗つて花だけ小刀で削り取る場合、毛の剛い筆で洗取する場合もあつて、其時の感じに従ひ一番都合のよい手段をとつたらよからう。二 あのやうな大タイのスケッチも稽古に必要、また本號にある小林氏の『草花』のやうな細かいスタデーも必要細かいスタデーの出来る人でないと、粗いスケッチはうまく感じが出ず、粗いスケッチの出来る人でないと、細かいスタデーを畫いても局部にのみ偏して大タイを忘れる、繪は粗い描寫で成つてものも細かい意味がなくてはいけぬ、細かく畫いた繪でも大タイの感が掴むでなくてはいけぬ、■寫生中蚊や虻ブト其他虫類の攻撃を防ぐ方なきや(SM生)◎吾等も常に苦しむ處にて、手だけは手袋を用ひ、脚は靴下で大ていは避る事が出来る、虻の攻撃は困る、ブトの目の前をグル／＼

廻るのは一番閉口、蚊やり香の類又は線香など側に置くもよからん、焚火をすれば一も二もなく虫は去るが、暑い時でもあり自分も困る、讀者諸君のうちに防禦の實驗ある人は御知らせを乞ふ■瀬戸内海號の圖にある白帆は紙の地にやホワイトにや(緑水)◎多くは畫きて後に其部分を水にてぬらし小刀にて削り取つたり。

### 讀者の領分

■ワットマン十六切位ひの水彩寫生畫交換希望、但畫題を附せられたく、寫生の日や場處等御記入あらば益々可、時として返葉の遅るゝ事もあらんも只貰ふやうな事はいたさず(鹿兒島縣谷山村中、川幡正光)■我等の指導者たる『みづゑ』の益々發展することは、原色版を以ても知ることが出来る、來月號から四枚になるさうだ、實に喜ばしい。丸山氏の渡歐所見も中々面白い繼續されむ事を(千葉の青眼の人)■『みづゑ』が賣れるから繪を殖やすとの豫告は實に嬉しい、此上共賣れて／＼終に每號十枚位も繪の入るやう

に大に盡力しやしぢやないか(浪華浪客)

### 紹介

◎草畫舞臺姿 山本鼎、阪本繁次郎筆

東京市外田端五一二 東京版畫俱樂部

四枚一組定價三十錢

帝國劇場六月狂言を畫きしもの、版畫美術の粹を發揮して遺憾なし。板目紙に紺土佐の縁とりたるタトウ紙、見るからに心地よく、宗十郎宗之助高麗藏等の躍如たる舞臺姿の、簡潔なる筆清楚なる着色共に愛すべく、近來稀に見る好出版物といふべし。

◎日本美術年鑑 第一卷

本郷區湯島切通坂上 畫報社

四六版クロス綴八百餘頁、定價一圓

八十錢

美術家及美術愛好者にとりては便利此上なし。内容は連月の廣告にあれば茲に言はず。いづれ毎年出版せらるゝ事ながら、假綴を製しても少し價を廉にせられたなら更に多くの需要を増すことならん。